

メリーランドへの初期入植者と「家族」
—アーク号とダブ号の乗船者記録からの検証—

安藤 喜代美

(名古屋大学文学部人文学研究科博士課程後期)

メリーランド植民地は、チャールズ1世がセシル・カルヴァート（第2代ボルティモア卿）にヴァージニア領北東部のチェサピークに特許状(*The Charter of Maryland*)を授けた領地である。セシルはその地の初代領主となり、植民地建設のために弟のレナードを初代総督に任命し、1633年11月22日に入植者希望者130ほどと共に、アーク号とダブ号でイングランドのカウズから現地にむかって出航した。植民地建設には、カトリック教徒を宗教的迫害からの解放する社会的な秩序構築と安定的な経済発展が掲げられたが、入植者のうちカトリック教徒は少数で、植民地建設の中心となったジェントルマン階層は、長男以外で家督相続権がなく、また、社会的にも不利な立場にあり、メリーランドに渡ることは自立への足掛かりであった。そのため、彼らジェントルマンは、植民地への出資者となり、加えて使用人（年季契約奉公人）の渡航費負担をし、130人ほどの様々な階層、宗派の人々がアーク号に乗船した。彼らはメリーランド植民地における最初の移住者となり、そこで家族を形成することとなる。そこで、本研究では、メリーランド植民地における初期入植者家族、つまり、アーク号の乗船者たちについて史料・文献をもとに調査し、彼らの家族関係を探求する。しかし、アーク号とダブ号の乗船者・乗組員名簿は現存しないため、①“*The names of the Gentlemen adventurer that are gone in perfon to this Plantation*”¹、②“*Ark and Dove Record, Passengers, Crew and Indentured the Ark and Dove, Maryland Colonists*”²、③*The Flowering of the Maryland Palatinate*³、を参考に、アーク号とダブ号の乗船者について調査を行う。“*The names of the Gentlemen adventurer that are gone in perfon to this Plantation*”は最も基本的な史料であり、先に述べた植民地建設に寄与したジェントルマンたちのリストが記載されている。本研究では、この史料を中心に、調査を②、③の史料・文献に広げる。調査結果として、入植者たちの関係は、きょうだい関係4組、親子関係1組、親族関係（詳細不明）2組、そして、夫婦関係（子どものいる家族を含む）は9組である。しかし、アーク号での同船夫婦は3組で、入植後に結婚したカップルの方が多く、男女ともに再婚は多く、知人間での再婚や、再婚が繰り返されるケースもあった。この背景には、当然であるが、女性の入植者が少なく、寿命も短いことがある。加えて、家族はイギリスに残すケースもある。他には、イエズス会による援助では、受給者の大半はプロテスタントという異宗派関係にあった。また、ジェントルマン出資者と使用人/年季奉公人は経営者と労働者という雇用関係にあり、家族関係にはないが、彼らはプランテーションという共同体で生活をしており、植民地時代、“*Household*”は“*Family*”と同等の意味で用いられ、そのメンバーは生活共同体の一員となる。つまり、“世帯”という単位での「家族」であり、“*both family and household meant to colonists an independent economic unit, the members of which lived in one dwelling or in proximity.*”⁴、プランターと奉公人はプランテーションにおける経済ユニットを構成しており、植民地時代の「家族」と捉えることができるのではないだろうか。Stone⁵はこうした1450年～1630年代のイギリス家族を長子相続制、経済的・政治的戦略的婚姻、乳児死亡率は高く希薄な親子関係、使用人などとの集合的な「類縁関係」で、“*open lineage family*”（「開放的血縁家族」）としている。さらに、Greene⁶の“*developmental model*”における第1段階（“*simplification*”、“*disorientation*”）であると考えられ、イギリスの社会秩序・規範を継承する“*traditionalize*”での家族形成であろう。

Kew wards: メリーランド植民地、アーク号乗船者、Open lineage family（開放的血縁家族）

¹ *Archives of Maryland Vol. 657, “Relation of Maryland”, pp. 45-60.*

² G. W. Hodges “Ark and Dove Record, Passengers, Crew and Indentured Servants” (pp. 73-75), in *Register of Maryland's Heraldic Families, Series II*, by Alice Norris Parran, 1938.

³ Harry Wright Newman, 1968. *The Flowering of the Maryland Palatinate*, self-published, Washington, D.C..

⁴ Robert V. Wells “Household Size and Composition in the British Colonies in America, 1675-1775”, Vol. 4, No. 4, pp. 543-570, *The Journal of History*, 1974.

⁵ ローレンス・ストーン, 1991, 『家族・性・結婚の社会史: 1500年-1800年のイギリス』北本正章訳, 勁草書房.

⁶ Jack P. Greene, 1988, *Pursuits of Happiness: the social development of early modern British colonies and the formation of American culture*, University of North Carolina Press.